



今回は世界史の小林理修より、おすすめのバーチャルミュージアムを紹介します。特に高校生のみに向けられたコンテンツではないですが、人類のさまざまな文化遺産がお茶の間から手軽に触れられるものになりつつあるのです。

・みんなく本館展示場バーチャルミュージアム

<https://www.minpaku.ac.jp/panorama/main/index.html>

国立民族学博物館は、本校が学習旅行で関西へ行く際には、だいたい訪れることになる、世界の諸民族の社会や文化についての社会教育機関です。小林（理）が地域研究の進んだ大学で学びたいと思ったきっかけとなった行事としては、社会見学実習の JICA 訪問とこの民博訪問があります。ここでは、現地の文物の実際の展示の様子をみられるだけでなく、現地社会を紹介するビデオも閲覧することができます。私たちがオンライン上で用いるアバターの語源は、ヒンドゥー教の神ヴィシュヌの化身 (Avatara) です。仏教のブッダもその一つと考えられており、その図像などもみられます。

・ Google Arts & Culture

<https://artsandculture.google.com/partner>

より、世界中のさまざまな美術館・博物館のコンテンツに触れることができます。特にトップページの背景の右下に人のマークがある場合、バーチャルミュージアムの形で館内を回る体験ができます。

例えば、東京国立博物館がそうです。

<https://artsandculture.google.com/partner/tokyo-national-museum>

小林は、中学校時代までは両手で数えられる位しか東京に出てきたことがなかったのですが、そのうちの一回が、夏休みの博物館訪問の宿題のために訪れた東博になります。先史の展示を見て、教科書や資料集と同じものが並んでいることに感動したことを覚えています。歴史時代の美術品も名品が揃っています。

また、ナショナル・ギャラリーもあります。

<https://artsandculture.google.com/partner/the-national-gallery-london>

小林は 2006 年の夏にロンドンとオックスブリッジに写本調査に行きました。週末は残念ながら図書館が閉まってしまうので、大英博物館やヴィクトリア&アルバート博物館など、様々な美術館・博物館を巡りました。ナショナル・ギャラリーもこの時に訪れました。世界史の図説に載っているファン=アイク弟の「アル



ノルフィーニ夫妻の肖像」を所蔵しているのはここです。オンラインでは、肖像画家として有名なホルバインの「大使たち The Ambassadors」という絵が高精細な形で見られます。

<https://artsandculture.google.com/asset/the-ambassadors-hans-holbein-the-younger/bQEWbLB26MG1LA>

二人の大使の間に置かれている地球儀を拡大すると、細かな地名の書き込みがみられ、この時代の空間認識を垣間見ることができます（本物はそれだけ大きいのです）。

本物を直に見たときの大きさや厚みがつ迫力は、オンラインの画像では失われてしまうのですが、実際よりも眼を近づけてじっくり見ることができる利点もあります。ほかにも、世界各地のコレクションが提供されていますので、この機会にバーチャル世界紀行へ出かけてみるのはいかがでしょうか。